

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

Winter 2019

Vol.24

特大号

Dogushi
Vol.24
2019年2月発行 発行：「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作・NPO法人 いいだ人形劇センター TEL:050-0959-033594 長野県飯田市本町1-2 TEL:050-0959-033594 E-mail:iida-puppet-c@niss.tanis.or.jp

特集①
人形劇の図書館コレクション展
こんなにすごい人形芝居があつた！

日本と台湾の文化交流
『皮影東遊記』開催の高雄へ

特集②

chiyoko

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌●Dogushi Vol.24

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

せかいの劇場vol.7

Lejo レヨ
「Hands up! ハンズアップ！」
チケット販売中！



世界のすぐれた舞台作品を鑑賞する「せかいの劇場」第7弾は、オランダから音楽がいっぱいでセリフなしの楽しい人形劇がやってきます。終演後は紙人形づくりの体験を行います。参加希望の方ははさみをご持参ください。

- 日時／2月16日(土)10:40開場-11:00開演
- 会場／飯田人形劇場
- 料金／大人1,800円、子ども(4歳～中学生)1,000円、おやこ2,500円※4歳未満無料
- 問合せ／いいだ人形劇センター
TEL:050-3583-3594

Dogushi

並木 さんぽ

第2特集で取り上げた日本と台湾との文化交流。今回、高雄を訪ねて感じたのはスタッフや公演にご来場いただいた方があたたかく迎えてくれたこと。さらに、企画展「皮影東遊記」は飯田のことや人形劇フェスタのことをよく調べてあり、見るだけでも楽しい展示でした。この企画展は2月10日まで高雄市皮影戲館で開催されています。高雄市立歴史博物館とともに、台湾・高雄へ行く機会のある方は観光コースに入れて訪ねていただきたいスポットです。

次号は4月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



View of IIDA

2019年、人形劇での初笑いは竹田扇之助記念国際操り人形館で行われた「初春を寿ぐ竹田人形館」。糸あやつり人形劇団みのむし(京都)が獅子舞やおてもんのほか、今話題の有名人が多く訪れるという「ニューそばく谷ヘルスセンター」を上演。笑いを誘いました。

AVIAMA

人形劇でつながる世界の都市

ピルゼン(チェコ共和国)

およそ17万人が住むピルゼンはチェコ共和国の西部に位置し、人口が4番目に多いまち。ビールの醸造法「ピルスナー」誕生の地であり、ピルスナーという名前もピルゼンという都市名に由来しています。国内いたるところに人形劇場や人形専門店があるチェコですが、ピルゼンもその根強い人形劇文化を支える代表的な都市の1つであり、人形美術家ヨゼフ・スクーパや映像作家イジー・トルンカといった巨匠を輩出しました(人形アニメーション作家・川本喜八郎はトルンカに師事していた1人)。いいだ人形劇フェスタ2018で『三銃士』を上演したアルファ人形劇場はピルゼンに拠点を置く国立劇団です。色彩豊かな木彫り人形のリズミカルな動きに魅了された方も多いのではないでしょうか。



50年以上の活動歴を誇るアルファ人形劇場による『三銃士』。“Divadlo Alfa”的名前で調べると、チェコ人形劇の世界を垣間見ることができます

西畠
棒遣い人形
三番叟の
黒川興行の荷西畠
棒遣い人形

黒川興行の荷と人形
西畠人形・黒川興行の荷と人形
西畠人形・池原由起夫の人形
東北の猿倉も土佐の西畠も、明治10年代にはじまつたが、猿倉は片手ハサミ遣いで、両手で二つの人形をもち、次々にさつとかしらを取り替える「七変化」の場面などを見せ場とした。土佐の西畠はコウモリ傘の骨を流用した棒遣い人形で、まったく違う操作の構造だが、明治後期には、それそれ数十から百にもなる人形座を輩出するほどの一大民衆娯楽として興行をおこなうほどの規模になつた点が共通している。

黒川興行は、百を超える猿倉人形芝居の中でも大規模座のひとつ、座員は総勢20名以上だった。主として祭礼などで仮設興行で東北から北海道、関東と巡っていたが、1965年頃公演終了後に荷造りしたままの状態で置かれていた15箱を1999年に発見した。その時の様子を再現したという展示方法が斬新でおもしろく、とても好評であった。

西畠人形・池原由起夫（三代目朝日若輝）の人形は、もともとは桐塑（一般的な日本人形の製作法）で壊れやすく、ほとんど古いかしらが現存していない。西畠人形を残さねばと木彫りに取組んで、すでに100体を超すかしらを製作してきたが、今回がはじめての展示。西畠人形は「棒遣い」で、じつはヨーロッパよりも20年以上早く考案され舞台で遣われていた。ヨーロッパで棒遣いが出てくるのは20世紀



竹田練場を会場にして池原人形が初展示

個性的な池原人形たち
西畠人形・池原由起夫（三代目朝日若輝）の人形は、もともとは桐塑（一般的な日本人形の製作法）で壊れやすく、ほとんど古いかしらが現存していない。西畠人形を残さねばと木彫りに取組んで、すでに100体を超すかしらを製作してきたが、今回がはじめての展示。西畠人形は「棒遣い」で、じつはヨーロッパよりも20年以上早く考案され舞台で遣われている。ヨーロッパで棒遣いが出てくるのは20世紀

初頭で、西畠は1880（明治13）年頃に遣われはじめていたのだ。今回初となる展示では池原人形のかしらが約30体並び、先進性をもつ西畠人形のあらたな魅力を見せていた。



特集

人形劇の図書館コレクション展
いいだ人形劇フェスティバル特別企画①

発見された箱から50以上のかしらが出てきた

迫力の展示 黒川興行の荷と人形
2018年のいいだ人形劇フェスティバルは40年の節目の年。世界人形劇フェスティバルが同時開催され、上演を観るだけではなく、人形劇の楽しみや興味を広げてもらおうと企画展示が複数開催された。知られざる伝統人形芝居の企画①「こんなにすごい人形芝居があった！」と、企画②「こどもたちのための人形劇はいつからはじめたのか？」をテーマにした4つの展示を誌上紹介。

伊那谷に今も残る人形浄瑠璃、伝統人形芝居は文楽に代表される義太夫人形劇はいつからはじめたのか？ 1923・2018現代人形劇の95年を記念国際糸操り人形館と竹田練場、そして川本喜八郎人形美術館で、それぞれの会場の特性を生かして展示された。なかでも竹田練場の「西畠・池原由起夫の人形劇は、この荷を発見した時の様子を再現したという圧巻の展示で、「西畠・池原由起夫の人形劇」も、世界で最初の棒遣い人形というあらたな驚きがあり、人形展示の面白さを見せていた。

節三人遣いだけかと思われがちだが、じつはそれだけではない、ありとあらゆるかたちの豊かな魅力ある人形芝居の存在を展示された猿倉や西畠の人形たちが雄弁に物語ついていた。

猿倉と西畠の
人形たち

違いないが、人形劇はずつと子どもたちのものと思われてきている。日本の伝統人形芝居は、世界的にも群をぬいた存在であるが、長らく子どもたちは人形芝居の観客ではなかつたのだ。

（1923）年頃、現代人形劇が動き出してからのことになる。現代人形劇の嚆矢となるのが「人形座」



1930年頃のお茶の水幼稚園での人形劇

の関東大震災直後の試演会。ほぼ同時に幼稚教育者の倉橋惣三がヨーロッパ視察の際にハリヤ・ロンドンの人形劇場で観客の子どもたちの反応を目の当たりにした。

たりにして、これは日本のことでもたちにもと帰国後すぐに、お茶の水幼稚園で上演をしたのが日本での子どものための人形劇のはじまりで、これがちょうど9年前のことになる。

そうしてみればいいだ人形劇フェスタの40年というは現代人形劇の歴史の半分にも近い時間を作り上げたことになり、あらためて飯田の人形劇の中における重みを感じてしまう。

こうした流れを人形劇の図書館の豊富な蔵書と資料で展示されたが、1998年世界人形劇フェスティバルの出来事や、バベット・マーケット誌の活動など飯田に関わり深いものもあり、現代人形劇の歴史を興味深く見ることのできる展示内容だった。

こどもたちのための人形劇はいつからはじまつたのか？

1923-2018 現代人形劇の95年

会場の様子 現代人形劇ポスターなども

特集 人形劇の図書館コレクション展
いいだ人形劇フェスタ特別企画②

戦争中の国策人形劇が講習会などで使用した人形（松葉重庸の複製）

竹田館では常設展示に続く部屋で、新たに発見された江戸時代の貴重な糸操りの人形「幻の幽蘭座」の人形が、竹田喜之助の柔らかで温かな人形とは全く違った空気を感じさせていた。

幽蘭座は糸操りの一座で、その実態はほとんど知られていないのだが江戸後期から大正3年頃まで上演活動を行っていたことが今回の展示の準備段階で判明した。また糸操りそのものが日本では少なく、現在各地に残るのは山陽から山陰にかけてのいくつかのみで、それらの中に幽蘭座の影響が見てとれるものがある。今回展示した7体は、江戸時代後期の様子を伝える人形で、男女の人物が4体、さらに獅子舞い、猿梨割（人形が真つ二つに割れる）などそれぞれが特徴ある貴重な人形たちである。

獅子舞い 大型の人形
江戸時代らしさを見せる構造

顔が割れる梨割は、ほかにもあるが身体ごと縦に真っ二つに割れ、手板も二つに分離するのが珍しい

幻の大坂・幽蘭座の糸操り

上方の人形芝居のなかで糸操りがどのような活動をしていたのか解明が進むことが期待される。こうして、人形芝居にはいろいろなかたちがあり、それに魅力ある趣をみせ、それそれが存在

感を持っていたことも印象的だった。海外からのフェス参加者も口々「ミで日ごとに増え、展示会場を巡りさまざまな日本人の形芝居のおもしろさを楽しんで、「圧倒されるような迫力で見応えがあります」との声があがっていた。

幽蘭座の典型的な
武士の人形と手板

絵看板 黒川興行の絵看板。見世物仮設興行として小屋掛けの際、正面に何枚もの絵看板を掛け、客の注目をひいた（津崎雲仙作 1.8×3.6m）



「迫力のあるおもしろい展示了だ」という声が多くたのは、こうした展示といふ場も人形劇へのあらたな興味へつながるということなのだろう。

日本と台湾の文化交流

『皮影東遊記』開催の高雄へ

2017年夏に友好提携を結んだ、飯田市川本喜八郎人形美術館と台湾の高雄市立歴史博物館。同年は高雄が飯田で、台湾の伝統的な影絵を紹介する企画展を開催。2018年は高雄へ飯田の文化を紹介するため、日本の伝統的な糸操り人形「竹田人形座 竹の子会」が上演に出掛けました。



高雄市皮影戲館で開催中の企画展「皮影東遊記」。エントランスには飯田を印象付けるリンゴ、いいだ人形劇フェスタのマスコットキャラクターぼおなどが展示されている（会期／2018年6月28～2019年2月10日）

人形劇を通じた日台交流

台湾の高雄市皮影戲館で開催中の企画展「皮影東遊記」の特別プログラムとして、11月24日・25日の2日間、「人形劇のまち飯田」を代表して「竹田人形座 竹の子会」のメンバー3人が糸操り人形を上演しました。2日間で4公演を行い、いずれも幅広い年齢層の観客で会場は熱気に包まれました。

日本の伝統を知つてもらおうと「三番叟」や「獅子舞」、糸操りならではの「ミカルな動きが楽しい」「子どもの夢」など5作品を上演。10本以上の糸を巧みに操り、人形の繊細な動きや表情を表現するうち、前列の子どもが人形と同じような動きをしたり、食い入るようじっと見る人も。アンコールの「フレンチカンカン」では、音楽に合わせた人形の愛らしい動きに手拍子がおり会場が一つに。

上演後は人形と記念撮影する人、糸操り人形を体験する人が途切れることなく大盛況の交流公演となりました。「高雄の皆さんがあたたかい心遣いに感謝します。機会があればまた上演に来たい」と竹の子会の水上隆さん。2019年以降も相互の文化交流が続きます。



企画展のフロアには2017年夏に飯田市川本喜八郎人形美術館で開催した「影絵in台湾」の展示に加え、展示期間中に上演した高雄市永興樂皮影劇団の様子も



高雄市皮影戲館の外壁には西遊記のタイル絵が描かれている



2017年夏の友好提携調印式後、「影絵in台湾」展の前で（写真左から2番目が高雄市立歴史博物館楊仙妃館長）。展示のほか、影絵の公演やワークショップもあり、私たちがまだ知らない台湾の文化に触れる貴重な機会となった



11月24日は高雄市皮影戲館、25日は高雄市立歴史博物館で上演。
4公演で約300人が来場（写真は高雄市立歴史博物館）



アンコールで上演した「フレンチカンカン」



老若男女が順番待ちで操作体験



1939年日本統治時代に建設された建物は当時、市庁舎として建てられた。1992年に高雄市役所は高雄市政府と改名され、移転。その後、1998年にこの建物は高雄市立歴史博物館として使われるようになった



わくわく イベントスケジュール

竹田喜之助人形展

2月24日(日)まで

会場／飯田市川本喜八郎人形美術館3Fスタジオ
料金／大人400円、小中高生200円

人形劇どうたのお楽しみ会

2月9日(土)10:00-13:30開演

会場／飯田市竜丘公民館
料金／200円(3歳未満無料)

飯田市立保育園保育士の人形劇研修発表会

いいだ人形劇まつり りんごつこ劇場 vol.15

2月17日(日)10:30-13:30開演

会場／飯田女子短期大学アカシアホール

料金／200円(3歳未満無料)

出演／地元アマチュア劇団6組

せかいの劇場 vol.7

2月16日(土)11:00開演

会場／飯田人形劇場

出演／Lejo レヨ「Hands up! ハンズアップ!」(オランダ)

料金／大人1,800円、子ども(4歳～中学生)1,000円、

おやこ2,500円(大人・子ども各1枚)※4歳未満無料

人形劇定期公演 2月

2月23日(土)10:30開演

会場／飯田人形劇場 料金／200円(3歳未満無料)

出演／人形劇すずらん、ザ・スリーデイズマーケットシアター ほか

人形劇定期公演 3月

3月17日(日)10:30開演

会場／飯田人形劇場 料金／200円(3歳未満無料)

出演／わたちゃんのはのぼの劇場 ほか



人形劇団わたくも
伊藤 進

年に一度の同窓会

飯田の初参加は35年前。入部したての学生サークルで何も知らないまま連れてこられました。地区公演後地元の方による手厚いおもてなしに感動し、夜は「りんごん」を踊りまくり。宿泊先の公民館で他大の学生と夜明けまで語り合い、最後は大平原でキャンプファイヤー。まだ若かつた自分には、まさに夢のような時間でした。

翌年以降も参加するうちに「卒業してからも来るぞ!」と思つたかどうか、大學3年の時に愛知県下の学生

次号は「人形劇団とんとん」の前田耕さんです

第13回
すべての道は
飯田へ通ず



飯田駅横アイ・パークにあるモニュメントの劇団プレート前で
お別れパーティー(1986年)。前方の一番左が筆者

で立ち上げたのが今の人形劇団わたくも。アマチュアでここまで続けてこられたのも飯田があつたからと言つて過言ではありません。

残念なのは、学生の参加が年々減つてること。この時期に試験があつたたり、学生サークル 자체が減つていたり。自分のいたサークルもメンバー不足で廃部に。若い世代といかにつながっていくかは、どこも課題ですね。

フェスタでの新たな出会いもうれしいですが、昔から来ている劇団や支えてくれているスタッフの方々とお会いするのも大きな楽しみ。飯田は、そんな懐かしい方々に年1回出会える同窓会のような場です。

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から②



早稲田大学坪内逍遙記念
演劇博物館
1965.12.25 発行

『演劇研究 第1号』演劇博物館紀要(創刊号)

早稲田大学の「演博(えんぱく)」(1928年創設)といえば、日本で唯一の演劇の博物館で、「ここには演劇のすべてがあります」というほどに、人形芝居も数多くの資料収集があり、研究活動も大きな成果を上げている。その創設35年を経て発刊した紀要の創刊号に、演博研究員の林京平「報告・伊那谷の人形」(115-124頁)が、黒田、上古田、大田切、早稲田、金野、桐林、今田の7座を紹介して当時の現況が明解簡潔にまとめられた内容で、とても興味深い資料といえる。『伊那谷の人形芝居文書目録編』(美博1996)の文献資料一覧に未掲載だが、こうした紀要等に多く取り上げられているのは、伊那谷の人形芝居が日本の人形芝居の中でも重要な存在であるからなのだ。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)

染・織と人形芝居

1月14日成人の日に、地域の伝統文化や地場産業と人形芝居の結びつきを学ぶ講座の第二弾が、飯田市上郷の黒田人形浄瑠璃伝承館で開催されました。地元をはじめ、県外から大勢が参加し、地域の華やかな伝統文化を見て、聴いて楽しみました。



「上郷の染・織と黒田人形」と題し、それぞれのつながりを時代背景とともにわかりやすく解説した上郷史学会会長 中島正韶さん、筒井捺染工場 筒井克政さん、筒井和服 筒井康之さん(写真右から)



「瓢箪」の柄を細かく染め抜いた着物。その技は近づいてじっと見入ってしまうほど。和服姿の方も多くいらっしゃいました



筒井捺染工場が所有する型染め用の「型紙」の数々。柄の種類、染め方の方法など参加者の質問にこたえる筒井克政さん(写真左)



型染めの染め見本の数々。なかには昭和30年代のものも



飯田女子短期大学茶道部による抹茶の振る舞いも。和服姿で講座に花を添えてくれました



黒田人形の座員から教えてもらいながら、一体の人形を三人で操る「三人遣い」の操作方法を体験しました



黒田人形保存会が「寿式三番叟」「鎌倉三代記 三浦別れの段」(写真)を上演しました

